別紙

令和６年度　学力向上プラン（留意点入）

学校名　　銀座中学校

学校の教育目標

きたえる学校　〇自ら考え　進んで学ぶ人になろう 〇情操を高め　心豊かな人になろう 〇心身をきたえ　たくましい人になろう

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。

令和５年度「学習力サポートテスト」や令和５年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	「令和５年度学習力サポートテスト」において１学年では区の平均点より２．２ポイント高くなっており、２学年では区の平均点より０．５ポイント低く、我が国の言語文化に関する事項が４ポイント低い。３学年では区の平均より０．３ポイント低い。我が国の言語文化に関する事項とが２．４ポイント程度低い。	・授業アンケートから読書量が少なく読み取る力がついていないことがわかる。 ・２年生の正答率は区の応用分野で平均０．５ポイント程度低く応用力が不足している。
算数・数学	「令和５年度学習力サポートテスト」において１学年は区の平均点より、２．１ポイント高くなっており、２学年でも、１．４ポイント高くなっている。３学年においても２．３ポイント高くなっている。領域別に見ても、全学年において正答率が高い。	・基礎的な計算問題を反復して行うことで基礎学力が定着しつつある。 ・体験的な学習活動を取り入れたことによって、正答率が区の平均を上回った要因と考えられる。
社　会	「令和５年度学習力サポートテスト」において１学年は区の平均点とほぼ変わらない。２学年は区の平均点を２．０ポイント低くなっている。３学年は区の平均をおよそ２．８ポイント上回っている。領域別に見ると、２学年は地理的分野の世界の姿と日本の姿、歴史的分野の中世の日本の正答率が、区平均よりおよそ５．０ポイント低くなっている。	・２学年は、授業に対する意欲はあるが、知識・技能の定着に課題がある。 ・３学年は授業に対する意欲が高く、習得した知識を活用する学習活動が取り入れられていると考えられる。
理　科	「令和５年度学習力サポートテスト」において１学年は区の平均点より、２．９ポイント高くなっており、２学年では、６．４ポイント高くなっている。３学年においては区の平均よりも５．１ポイント高くなっている。領域別に見ても、全学年において正答率が高い。	・話し合い活動が定着しつつあり、思考・判断・表現の向上がみられた。 ・実験や観察の結果を丁寧にまとめたことが、正答率が区の平均を上回った要因と考えられる。
英　語	「令和５年度学習力サポートテスト」において１学年は区の平均点より１．９ポイントほど高くなっており、２学年は１．０ポイント下回っている。３学年においては区の平均とはほぼ変わらない結果であった。領域別に見ると、２学年の「書くこと」が低いことが課題である。	・語形・語法や語彙の知識・理解などは反復学習で基礎学力が定着しつつある。 ・長文の読み取りでは英文を読むことで理解力を伸ばすことができることがわかった。 ・２学年「書くこと」では文法事項をしっ

		かり習得し、授業を生かし取り組むことで伸びる可能性が十分にある。
体育・保健体育	令和５年度東京都生徒体力・運動能力調査において持久力が全学年とも都、全国の平均より低い。また、1年女子と全学年男子は、合計得点も全国・東京都平均より低い。	・感染症予防で運動の機会が少なくなり日常生活での運動時間が減っている。継続的な運動を行っていく必要がある。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	「令和５年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	算数･数学	「令和５年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	社会	「令和５年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年において、区平均を上回ること。
	理科	「令和５年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	英語	「令和５年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	体育・保健体育	「令和５年度東京都生徒体力・運動能力調査」においてハンドボール投げ・持久走が全学年とも都、全国の平均に近づける。
②授業改善		２学期末実施の生徒授業アンケートにおいて、生徒の８５パーセント以上が授業に意欲的に取り組んでいる結果になるように授業改善を行う。
③家庭との連携		１２月実施の学校評価保護者アンケートにおいて「授業の質の向上を目指し、交流・対話が活発な授業で『分かった』を実感させている」という項目で８０パーセントが肯定的な回答になるようにする。
④体力向上		６月の体力テストの長距離走のタイムと比べ、３学期の長距離走の単元で１、２年生の８０パーセント以上の生徒が自己新記録を出せるように体力向上に取り組む。

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	朝学習の時間を使用し、朝読書を行い継続して読解力向上に取り組む。授業開始１０分を利用し、漢字ドリルを活用し、漢字に関わる知識の定着を図る。
算数・数学	全学年において、週末に復習プリントの課題を課し、数学に関わる知識・技能の定着を図る。授業において ICT 機器を活用し、身近な話題から数学的な思考力を高める学習活動を行う。
社会	グラフや図の活用ができるように、授業を通して基礎的な技能の定着を図る。また、授業の中で ICT 機器を活用した調べ学習や発表などを取り入れ知識を活用し、思考力を高める授業を実施する。
理科	実験・発表の機会を増やすことにより、体験して考察する力を育成する。また、学習後に復習プリントを行い繰り返し書くことで学力の定着を図る。
英語	読解への苦手意識をなくすために、レベルをつけてスモールステップ学習をする。また、授業の中で文法習得後に書くことで学習の定着を図る。

体育・保健体育	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行っていく。学年や単元によって強度は変えていく。持久力に課題があることから、長距離走の授業内で継続して運動する時間を確保する。

②授業改善	
取組Ⅰ	４月当初に本校校長が講師となり、主体的・対話的で深い学びと評価の関係について講義を行い、学校全体で情報共有をし授業改善を行う。
取組Ⅱ	教員の授業力向上を目指し、校内研修会を通して、教員相互の授業を参観し意見交流する場面を設定していく。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	三者面談や家庭連絡等を通じて、担任から、生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況などを伝え、家庭との連携した指導を行う。
取組Ⅱ	GoogleClassroom を活用し、学校を欠席しがちな生徒への教科連絡や、定期考査前に掲示板で教材等を提示して学力向上のアドバイスを行う。

④体力向上	
取組Ⅰ	授業及び外部講師による講演会等により、体力の向上とともに自己の心と体の健康について理解を深めるための学習活動を行う。
取組Ⅱ	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行う。学年や単元によって強度は変えていく。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			

①～④の内容の取組結果について、解決策も含めて具体的に記述する。（R7.3月に提出する。）